

新手の儲け話

第35回 「医療機関債の販売トラブル」

発生!

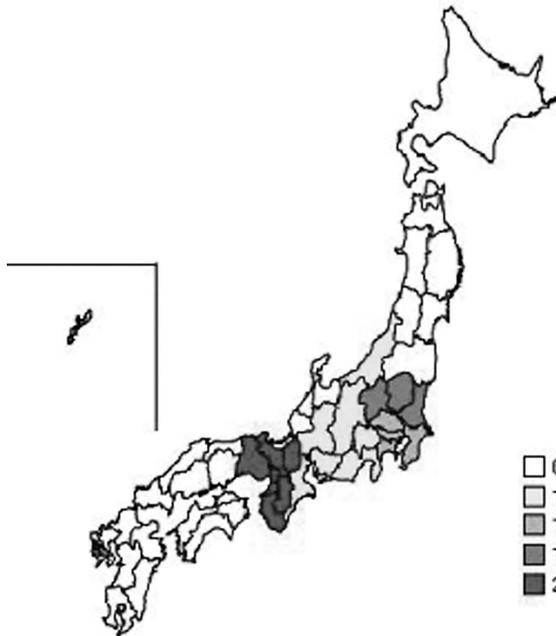
高齢者に対する電話や訪問でしつこく医療機関債の勧誘をされると言ったトラブルが各地の消費生活センターに寄せられています。

勧誘時に「医療機関債」のほか「病院債」「医療債」「病院への投資」などと言う言葉が使われています。

「医療機関債は、国債と同じで元本割れすることのない安全な商品である」といった、**事実と異なる説明**や、**高利率であること**だけを強調するなど問題のある勧誘が見られます。

トラブルの拡大を未然に防ぐため、安易に業者の話をうのみにしないように注意しましょう。

不審な電話や、訪問、投資に関する封書が届いたら、すぐに養父市消費生活センターに電話してください。



この地図は、相談が寄せられた地域分布で、兵庫県をはじめ近畿の相談件数が多いことが分かります。

お問い合わせ先

しまった、困ったその時は消費生活センターへ！
養父市消費生活センター
 (0662-3170)

まちの文化財 ⑧4

く太田垣猶川の敬忠舎



江戸時代に活躍した養父市の教育者に太田垣猶川(ゆづり)という人物がいます。吉井村で医者として人を助け、関宮村に敬忠舎という私塾を開いて学問を教えました。

関宮町の栄町にあるお大師堂の敷地に、「羽山太田垣先生之墓」という高さ134cmの石碑があります。これは墓ではなく、門人が建てた顕彰碑です。石碑の側面には、村岡藩校教授の池田益氏が太田垣先生の事跡を解説しています。実名は惟中(いみちゆう)、通称名は猶川、羽山(はつやま)です。京都で時彦に医学を、手島培庵(てしまいけいあん)に道学を学び、吉井村に帰って医学で人を助けました。そ

の後、心学を広めました。豊岡藩主永極高行侯は招いて進講を3度も受けました。文政2年(1819年)に71歳で亡くなりました。門人が追慕して碑を建て、徳を讃えました。

手島培庵は、石田梅岩の高弟であり、石門心学の指導者です。手塚一門は全国に約60人の教授がいましたが、但馬国の教授は太田垣猶川の1人だけです。

太田垣猶川は、寛政9年(1797年)、著書「御代の腹鼓」を出版しました。その一節には「夏は暑いが夏の道、冬は寒いが冬の道、人には人のまことのみち、この誠にさへたがわねば、家もこのい、国治まる」と記しています。

太田垣猶川の弟子の1人に八鹿村の西村潜堂(せんとどう)がいました。西村潜堂は八鹿諏訪町に心学講舎として立誠舎を開きました。その後、但馬に帰郷した池田草庵も、ここで最初に漢学塾を開きました。

江戸時代の養父市には、関宮村に太田垣猶川の敬忠舎、八鹿村に西村潜堂の立誠舎、宿南村に池田草庵の言給書院がありました。こうした私塾は、養父市の教育の源流となった先人の足跡です。養父市には200年も前から教育を大切に伝える伝統があります。

(教育委員会社会教育課)